

# 環境学習プログラムの活動報告

～中丸小・村松小～



村では、「東海村生物多様性地域戦略」(平成26年3月策定)に基づき、平成28年度から村内の各小学校と連携して、本村の自然を生かした環境学習を進めています。これは、村内における生物多様性の保全・再生と、自然の恵みを持続的に得ることができるまちづくりを推進するものです。令和3年度は中丸小学校、村松小学校の5年生を対象として実施しました。各校の活動は以下のとおりです。

【問い合わせ】環境政策課環境計画・緑化推進担当(☎282-1711 内線1454)

## 中丸小学校

中丸小では、「東海村の自然の魅力を伝えよう！」をテーマに、総合福祉センター「絆」の北側に広がる緑地をフィールドに身近な自然の魅力や楽しみ方の発見・発信を目的とした環境学習を行いました。

フィールドワークでは、草原や小川等の多様なフィールドに生息するハネナガイナゴやエサキモンキツノカメムシ等の昆虫のほか、モクスガニやスジエビ等の生き物や、サクラタデやムラサキシキブ等の植物を観察することで、東海村の自然本来の姿とその魅力について学びました。



気になる動植物を探している様子

## 村松小学校



学校内のビオトープで生き物をつかまえている様子

村松小では、「村松小学校の環境政策課になろう！～わたしたちにできることから～」をテーマに、学校ビオトープで見つけた東海村の自然の魅力を発信することを目指した環境学習を行いました。

フィールドワークでは、オオカマキリやイラガの繭、オニヤンマのヤゴ等の観察を通し、ビオトープに内在する草原や森、小川等の多様な自然環境と、そこに生息する動植物との関連性について学びました。

## ■□■□■ オンラインで両校をつなぎ、学習発表を行いました ■□■□■

3学期には、中丸小と村松小をオンラインでつなぎ、環境学習の成果を発表し合う学校間交流を行いました。両校は、それぞれ異なるフィールドで1年間学んできましたが、互いの学習成果の発表を通して、フィールドごとの環境特性とそこに生息する動植物の違いや、共通点等を発見することで、広く東海村の自然について学ぶことができました。